

≪第 57 号≫「持ち帰り袋の有料化!?!」

石井 暁子(グリーンコンシューマー東京ネット会員)

「レジ袋」というとスーパーのレジ袋を真っ先にイメージしますが、コンビニやドラッグストアでも使われているし、ホームセンターなどのちょっと厚手でスーパーの物よりもかなり大きな袋や、いわゆるレジ袋とは形も色も違うビニール袋もあります。買い物した時に消費者が買った物を持ち帰るために店側が提供する袋には、レジ袋のほかにビニールや紙袋もあります。このような「持ち帰り袋」を減らすためにはどうすればいいでしょうか。

スーパーのレジ袋は、私が消費者問題に取り組むようになった 12 年前と比べて断りやすくなったと感じています。断るタイミングや相手をビビらせないように穏やかに断る方法とかを考える必要もなくなってきました。いるいないを意思表示するためのカードを店員さんに見えるように買物かごに入れておけば断れる店もあるし、初めからレジ袋は有料の店もあります。レジ袋を断ると値引きしてくれたりポイントを付けてくれたり、店によって方法は違うけれどレジを断る人が得をする仕組みができています。

一方コンビニやドラッグストアではレジ袋を断って変な顔をされることは無いけれど、得をすることもありません。ドラッグストアに行く時には中身が透けないマイバッグをもって行くし、コンビニに行く時にもマイバッグを持って行くようにしてはいるけれど、コンビニで買物をした時はレジ袋を欲しい時もあります。

デパートに買物に行く時には標準サイズの紙袋と同じくらいの容量で、持ち手が皮で折りたためるバッグを持って行くようにしていますが、デパートの紙袋やビニールの袋、各ショップのロゴなどが印字されている袋を上手に断るのは結構難しいと感じます。

ホームセンターや大型雑貨店などでスーパーのレジ袋には入らない大きな物を買った時には、その店の袋を断ることが出来ないことの方が多いのです。唯一、定期的に買うと決めた物については、最初買った時にもらった袋を取っておいて次回買う時にその袋を持って行ってまた使うことで、新しい袋を断ることが出来ました。

「持ち帰り袋」を削減し、環境負荷を減らすためには有料化するのが最も効果的ですが、全面有料化には無理がありそうです。

例えば、一定の大きさ以上の商品を買った消費者には無料で提供するなど渡す基準を作り、その基準に満たない場合は有料とするなど「持ち帰り袋」の削減に積極的な事業者が増えることを望みます。

以上